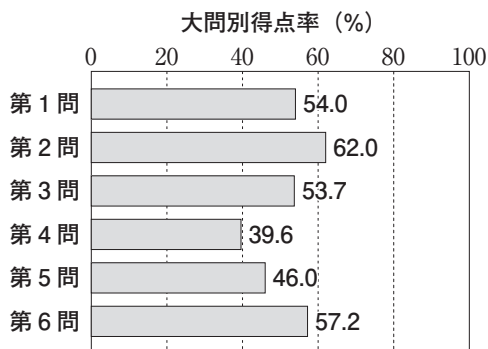
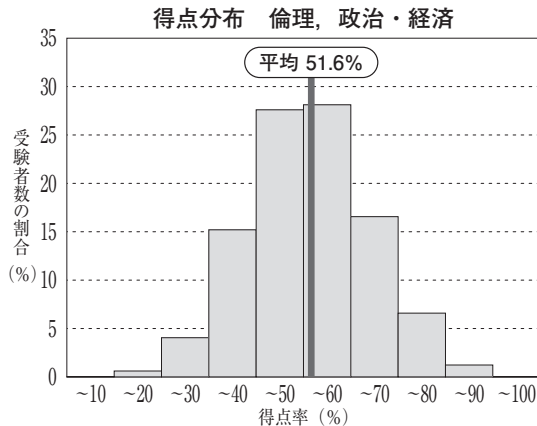


# 倫理, 政治・経済

平均点はようやく 50 点を超えたが、まだまだ本番レベルには至っていない。

## I. 全体講評

今回の「全国統一高校生テスト 倫理, 政治・経済」は、受験学年の平均点が 51.6 点であった。ただ、センター試験本番の例年の平均点には及んでいない。また「倫理, 政治・経済」選択者の多くは難関大志望者であろうから、ここから大幅な上積みが必要であろう。公民科目は後回しにしがちだが、センター試験本番まで残された時間はわずかしかない。特に高3生にとっては公民科目に十分な時間をかけるのは難しいだろうが、入試ではもちろんそんな事情を考慮してはもらえない。一刻も早く標準レベルの設問を解く力を身につけ、冬休み以降の追い込み期にプラスアルファの得点力をつけられるように頑張ってもらいたい。



## II. 大問別分析

### 第1問 青年期・現代社会分野

得点率はまずまずであったが、読解問題で稼いだ面が大きい。

大問としての得点率は受験学年で 54.0% と、まずまずであった。ただ、平易な文章読解問題である問 5 [5] の正答率が約 90% と高かったことで引き上げられた面が大きく、その他の設問でみれば出来がよかったとは言いがたい。特に現代の政治哲学に絡む問 4 [4] の正答率は 36.4% と低かったが、重要性の増しているテーマなので、よく復習してもらいたい。

### 第2問 源流思想・日本思想分野

読解問題の出来がよかった。内容理解を深める事が求められる。

受験学年の得点率は 62.0% と、今回の大問の中では最もよかった。ただ、その最大の要因は第1問と同様で、文章読解問題（問 6 [11] と問 7 [12]）の正答率がいずれも 90% を超えたことが大きい。少し踏み込んだ知識が求められた問 3 [8] では正答率が 27.8% にとどまるなど、学習成果による得点状況とは言い難い面もある。出来なかった設問を中心に復習を進めてもらいたい。

### 第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

得点率は低かったものの、大崩れはしなかった。

受験学年の得点率は 53.7% と、倫理分野では最も低かった。文章読解問題（問 6 [18]）を除けば、正答率はいずれも 50% 前後にとどまった。とはいえ、40% を割り込む設問がなかったのは、例年よりも上出来である。西洋思想分野は内容理解の難しいものが多いので、解説を熟読してよく復習してほしい。

**第4問 財政, 金融**

非常に出来が悪く、経済分野の学習が進んでいない状況がうかがえる。

受験学年の得点率は39.6%と、今回の大問の中で最も低かった。特に問8 [26]の正答率は21.5%にとどまった。この設問は経済史の知識を前提にグラフを読解させるもので、近年のセンター試験で定着した形式であり、難易度は高いが真の実力が試されるものといえる。②を選択した受験者が半数以上であったが、これはバブル経済を1980年代前半と誤認したと考えられる。ほかにも正答率30%前後の設問が4題もあり、経済分野の学習が進んでいない状況がうかがえる。

**第5問 裁判所**

一通り学習していても、詰め甘さが失点につながった。

受験学年の得点率は46.0%と、ふるわなかった。政治分野なので経済分野よりは学習済みの受験者が多いはずだが、人身の自由と司法改革という基礎事項に関して、20%前後の正答率にとどまる設問が2題もあった。まだまだ学習の詰めが甘いと言わざるを得ない。特に問4 [30]は正答率が17.7%であった。②の選択率が60%を超えているが、国選弁護人制度は憲法に規定されているもので、2000年代の司法制度改革の結果ではない。何が問われている設問なのかを確認することは基本中の基本である。今回間違えた受験者は猛省してほしい。

**第6問 地球環境問題**

関心の高いテーマであり、上出来であった。

受験学年の得点率は57.2%と、政治・経済分野では最も高かった。環境問題は社会的な関心も高く、多くの受験者の意識も高かったのであろう。地球サミットに関する7択問題(問3 [34])で正答率が33.3%に留まったのは残念だったが、これがなければもっと上出来だったであろう。一つ一つの文で見れば多くの受験者は正しく判別できているが、この形式はすべて正しく判別できなければ得点にはならない。正確な知識を身につけてほしい。

**Ⅲ. 学習アドバイス**

センター試験の本番まで、もう80日もない。残された時間のなかで、どのような対策を立てればよいのだろうか。ここでは、過去問及びこれまでに受けた模試を徹底研究することを強くお勧めしたい。まだ過去問に触れたことのない受験生であれば、今回の高校生テストの復習から始めてもよい。教科書や参考書の重要事項をマーキングしてその暗記する受験生は多いが、そうしたやり方は定期テスト対策にはなっても、センター試験対策にはならない。センター試験対策には、センター試験の形式での学習こそが最適である。

模試には解答だけでなく解説がついているので、解説を熟読しながら、また用語集や資料集なども活用しつつ徹底的に研究しよう。すべての選択肢を吟味し、誤文のポイントを一つ残らず確認する。多くの受験生は過去問も模試もその場で解いて答え合わせをして終わってしまうが、過去問・模試は解き終わってからが本番だと思うべきなのだ。

一つの問題を徹底的に研究することで、初めて本当の効果が得られる。実戦力をつけるためには、これが最短の方法である。こうした作業を過去問や模試の十回分程度やるならば、それだけで相当な力がつくはずだ。